

グローバル人材育成プログラム に参加して

昌原尚平
Shohei MASAHARA
電子情報学科 3年

1. はじめに

私はグローバル人材育成プログラムに参加し、カリフォルニア州にある kintone corporation で2016年8月15日から26日までの2週間インターンシップをさせていただきました。本プログラムに参加を決めた理由は主に2つあります。1つ目は、大学入学後に始めた正課もしくは課外活動での英語学習が、外国での生活に活かせるのかどうかを試してみたかったからです。本プログラムにおいてホームステイ先で出会った留学生とも話をする事ができたことは貴重な体験となりました。2つ目は、日本を客観的に見る事ができると考えたからです。実際にアメリカに行ってみると、日本にいるときには当たり前と考え気にも留めなかった風景や文化などの多くが、日本のそれとは異なっていることに気づきました。また、インターンシップ先での研修以外にも本プログラムでは、事前学習、企業見学、観光、講演会など、様々なことにふれる機会があり、日々充実した時間を過ごすことができました。

2. 実習先企業の概要

私が実習をさせていただいた kintone corporation はグループウェアの開発・販売・運用を行っている Cyboze 社のアメリカ法人であり、サンフランシスコのスタートアップ企業が集まるオフィスビル（図1）に入居しています。また、親会社の Cyboze は日本国内に7拠点（本社含む）、国外に4拠点を有する東証一部上場企業です。グループウェアとは企業や組織内の情報共有やコミュニケーションを支援するソフトウェアのことで、作成した売上表やスケジュールなど様々な形式、情報を簡単に共有できる



図1 kintone corporation が入ったオフィス

というもの。特に kintone では顧客の要望や利用目的に合わせてカスタマイズを行い商品を提供しています。

3. インターンシップ

kintone corporation で私が行った主な業務は以下の通りです。

- ・ Contact list 作成
- ・ アプリケーション動作確認
- ・ meeting 参加
- ・ 商品デモ作成

Contact list と呼ばれる顧客リストの作成はその後の商談、契約、運用へとつながるセールスとしての最も初期段階の業務であり、アメリカに進出している日系企業の企業名、従業員数、住所、電話番号や特記事項などが載っているタウンページのような資料を用いて情報を収集してまとめました。その際、正確にデータを入力することはもとより、外部の企業に対して商品の提案をしやすくなるように、情報を整理しました。また、データを入力する作業では多

様な職種や業種があることを知ることができました。その他にも、経費、出張費や休暇申請などに関する9つのアプリケーションに対してその動作確認を行いました。休暇申請についてのアプリケーションについて調べていると、申請書を編集できない立場の人が変更を加えられることができてしまうことなど、本来の仕様とは異なる動作をしてしまっていることがあるため、目的通りに動作をしているかに注目して正確にチェックをしていくことの大切さを学びました。実際に企業に提案する商品の最終チェックに携わらせていただいたことで、責任感をもって業務を行う経験をさせていただきました。

また、実習の初日と最終日に kintone 社長の山田様と面談をする機会をいただきました。面談で得ることができたものの中で特に以下の2つの事が2週間のインターンシップにおける過ごし方を大きく変えたと思います。1つ目は、常に物事に対して疑問を持ち続けることです。すべての情報や考えを納得してしまい何も疑問に思わないというのはただの思考停止であると気づき、すべての業務に対して疑問を持ち、質問をすることを心掛けました。こうしたことを常に意識することは私にとって難しく、気を抜くとすぐに意識できていない時間ができてしまい、これまで物事に対して疑問を持たず漠然と過ごしてきたことにも気づくことができました。2つ目は、アメリカと日本における文化や考え方の違いを理解することの重要性です。これは事前学習においてグローバル人材育成プログラムにおける目的の一つに挙げていましたが、違いを考える必要性や理由が明確になっていませんでした。山田社長との面談

でわかったことは、異なる文化や考え方、ビジネスのやり方を理解することができれば、自国だけでなく他国にも利益を与えられるようになり、これがグローバル人材になるために必要であるということです。異文化を理解し、それをもとにして技術を提供し他国への貢献を行える人がグローバル人材であると理解しました。

4. おわりに

今回のプログラムでは企業での実習の他にもシリコンバレーツアーにて企業や博物館を見学したり、朝市ボランティアなどにも参加したりすることで、多くの体験をすることができました。また、その過程でたくさんの人に出会うことができました。自分から声をかけて積極的に人とかかわることによって、facebook 社員の方に本社を見学させていただいたり、地元の大学生にピクニックに連れて行ってもらうなど、貴重な経験を得られました。日本では遠慮してしまったり、しり込みしたりして行動に移せないことがありましたが、アメリカでは思ったことははっきりと伝え行動に移すことが多く、こうした雰囲気があることから、私自身もいろいろなことに積極的にアプローチすることができました。その結果、様々な体験をすることができたことから、何事も主体性を持って取り組むことの大切さを知りました。また、同じホームステイ先に滞在していた留学生は学ぶことに対する意識が高く大変刺激を受けました。最後になりますが、ホストマザーや企業先の方々、先生方のおかげで無事本プログラムを終えることができましたこと感謝申し上げます。